



土砂災害

自分から情報収集 早めの避難を！！

避難情報の発令について、覚えておきましょう！

福岡市では、さまざまな手段にて災害情報を発信しています。しかし、大雨などにより土砂災害が発生しそうな時は、**避難情報が出ていなくても自分から情報収集し、早めの避難を心がけましょう。**

大雨注意報 大雨警報

レベル 3 高齢者等避難 危険な場所から高齢者等は避難！

避難に時間がかかる高齢の方や障がいのある方、避難を支援する方などは危険な場所から安全な場所へ避難しましょう。

土砂災害 警戒情報※

レベル 4 避難指示 危険な場所から全員避難！

全員速やかに危険な場所から避難してください。

レベル 5 緊急安全確保 命の危険！直ちに安全確保を

すでに災害が発生又は差し迫った状況ですので、直ちに命を守る行動をとってください。

※土砂災害警戒情報とは、土砂災害の危険が高まったときに都道府県と気象庁が共同で発表する情報です。

大雨になったら、まず、気象情報・避難情報を集めましょう！

■ テレビのデータ放送 無料

災害時、テレビのリモコンのdボタンを押して、気象情報や避難情報を入手できます。



■ 総合ハザードマップ

福岡市 総合ハザードマップ 検索 無料

各種災害リスクをインターネット上で一元的に確認できます。地域や家庭における防災・減災のため、身の回りの災害リスクや避難経路等の確認にご活用ください。



■ 福岡市防災メール

福岡市 防災メール 検索 無料 ※メールの受信などの通信費用は登録者の負担

最新の気象情報、地震・津波情報、雨量・河川水位情報、土砂災害警戒情報、避難指示などの緊急情報を携帯電話やパソコンにメールで提供します。



■ 土砂キキクル（危険度分布）

気象庁 キキクル 検索 無料

気象庁では、土砂災害など大雨による身の回りの危険が一目でわかるキキクル（危険度分布）を提供しています。



■ 防災アプリ「ツナガル+（プラス）」

福岡市 ツナガル プラス 検索 無料

災害時の避難行動や避難生活を支援するアプリです。近くの避難所の位置や設備、ルートを確認できます。電子掲示板などで利用者間はもちろん、市との情報共有もできます。



「App Store」は、App Inc.の商標です。「Google Play Store」は、Google LLC.の商標です。Map data ©2023 Google

■ 福岡市 LINE 公式アカウント

福岡市 LINE アカウント 検索 無料

避難情報や大雨等の気象情報、地震情報などを LINE でタイムリーに受け取ることができます。



公民館等の市施設だけではなく、ご自身に合った避難先を決めておきましょう！

市が指定した避難所への立退き避難



自ら携行するもの
・マスク・消毒液
・体温計・スリッパ 等

安全な親戚・知人宅への立退き避難



普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

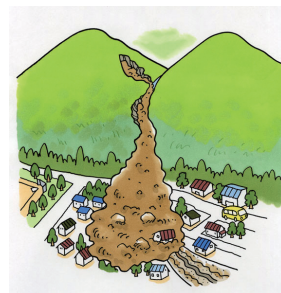
安全なホテル・旅館への立退き避難



通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

土石流とがけ崩れについての知識を身につけましょう

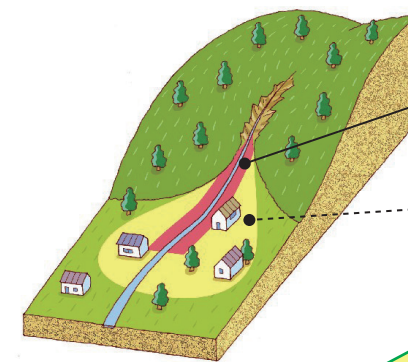
土 石 流



1963年（昭和38年）福岡市

土石流は、山や谷の土砂が大雨などでくずれ、水を含んだ大量の土砂や巨大な石が、溪流や沢筋から一気に押し寄せる現象です。

■ 地図の解説



土砂災害特別警戒区域
（レッドゾーン）
建物が破壊され、住民に大きな被害が生じるおそれがある区域

土砂災害警戒区域
（イエローゾーン）
土砂災害のおそれがある区域

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

■ 緊急安全確保



直角に逃げる！

マップ上の黄色い区域（土砂災害警戒区域）から離れた堅固な建物や、河川・溪流から高低差のある高い場所に避難しましょう。

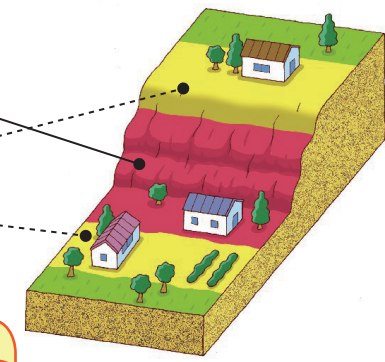
が け 崩 れ



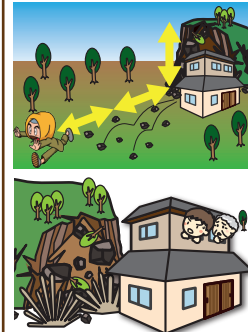
出典：国土交通省関東地方整備局

がけ崩れは、大雨や長時間の雨、地震などの影響で急ながけや山の斜面が崩れ落ちる現象です。住宅の近くで突然発生すると逃げ遅れる人が多く、大きな人的被害をもたらします。

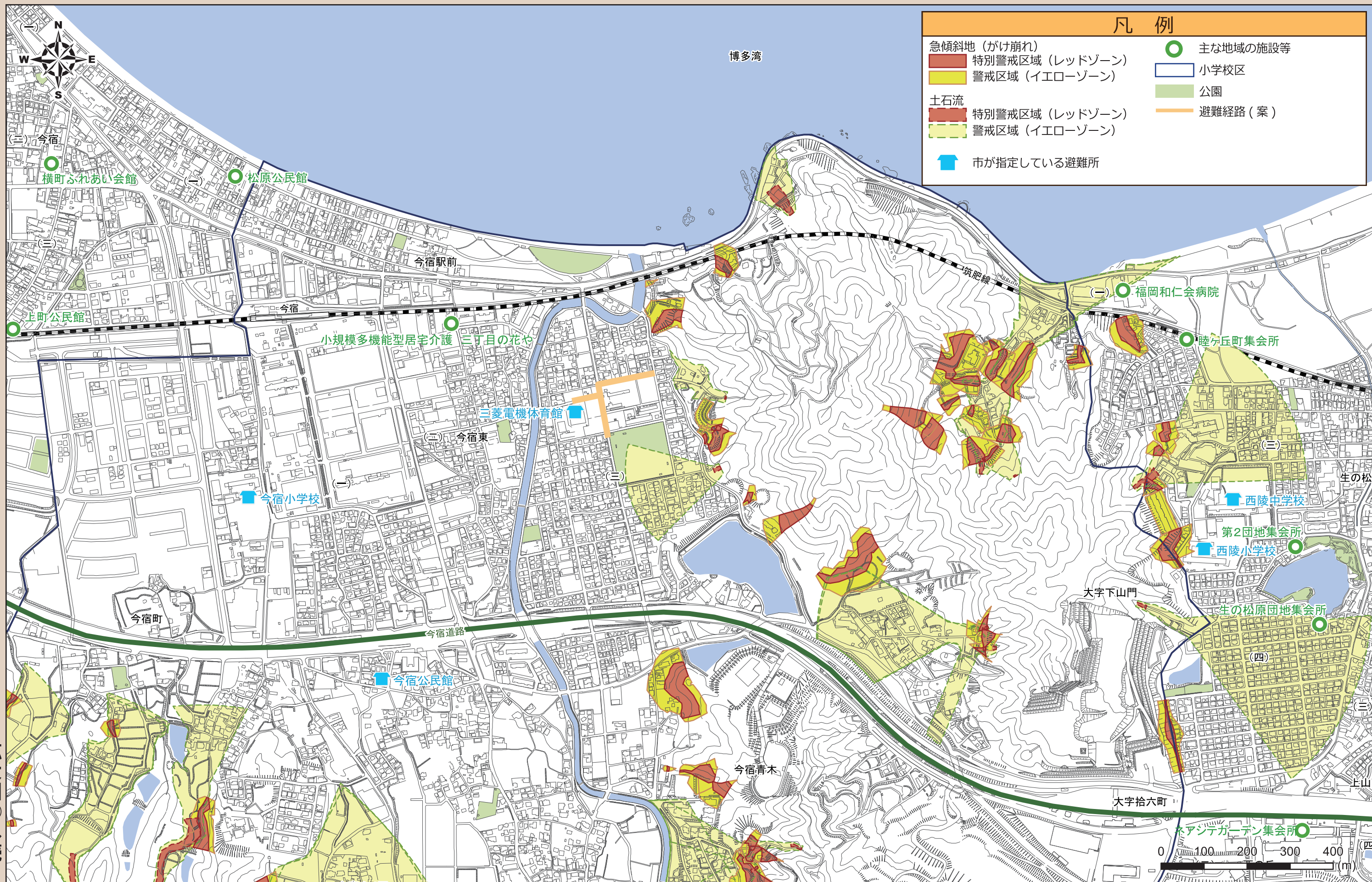
■ 地図の解説

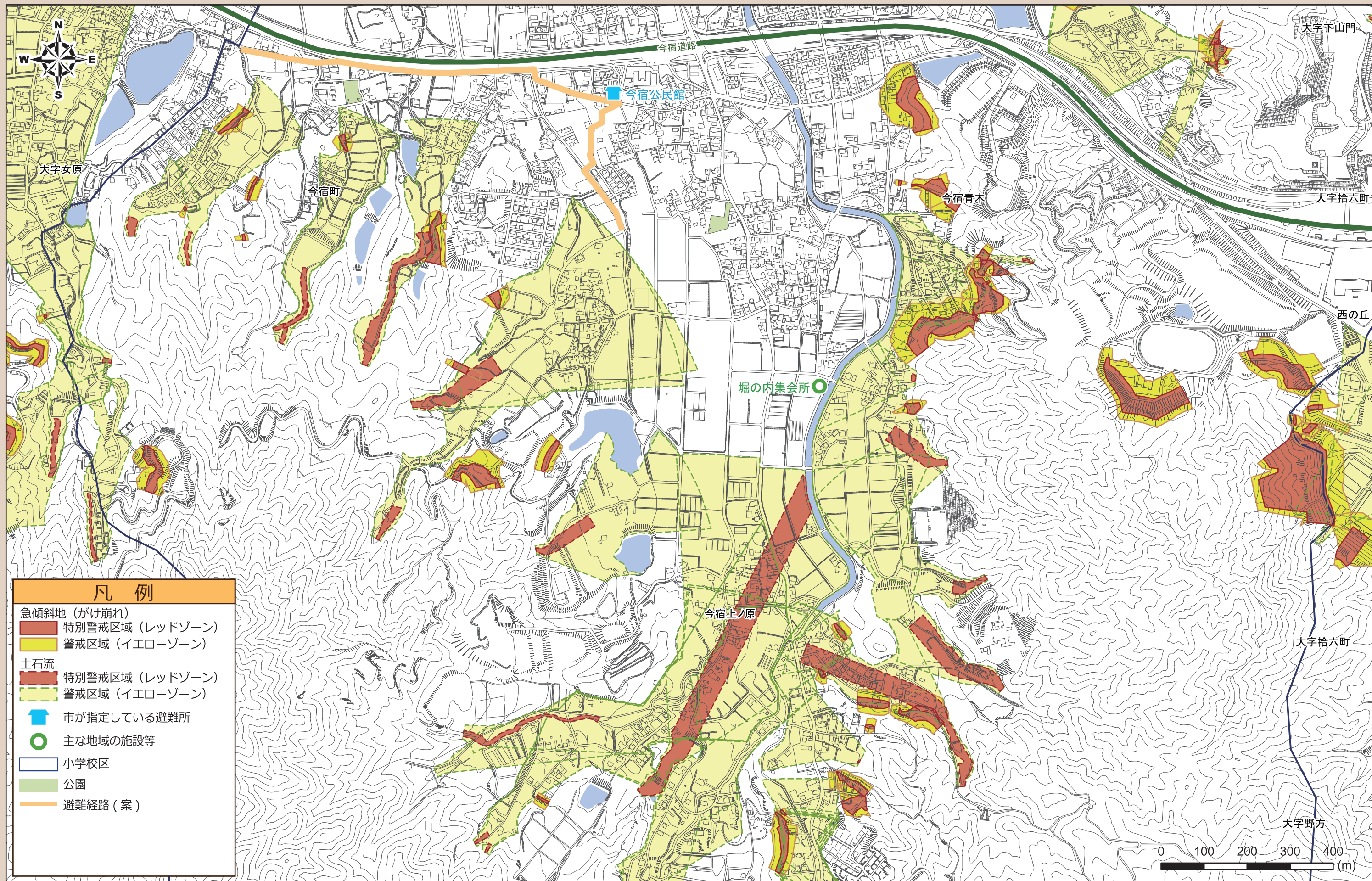


■ 緊急安全確保



・マップ上の黄色い区域（土砂災害警戒区域）からできるだけ遠くに逃げましょう。
・大雨などで外に逃げるのが危険な場合は、がけと反対側のなるべく上の階に避難しましょう。





避難経路(案)について

・各警戒区域から市の指定避難所への経路(案)の一つを示していますので、日頃から地域や家族と話し合い、自分の避難先や避難経路を確認し、マップに書き込んでおくなど、事前に備えておきましょう。